

# 記念館新聞



福岡町立  
柳田國男・松岡家記念館  
〒679-2204  
神崎郡福岡町西田原  
1038の12  
電話：0790-22-1000

## 2月の初午 はつうま

あつという間のお正月が終わり、2月に入りました。みなさん、いかがお過ごしでしょうか。

國男は、人々の生活の中の習俗や信仰などの事例に注目し、それを記録することで、次の世代に伝え、考えました。

その1つに年中行事があります。1年を通して多くの行事が行われています。

そして、それらは地域によってさまざまであり、時代ごとに変化もしています。



「初午祭」(東京)  
『年中行事図説』  
(岩崎書店、昭和28年)

國男が監修した本に『年中行事図説』があります。ここで「初午」が紹介されています。

初午とは、2月の一番最初の午の日のことで、この日に稲荷をまつる風習が広くあると記されています。そして、初午といえは、稲荷の社に子どもたちが集まって、夜遅くまで太鼓をたたいている風景があったとあります。

みなさんの地域ではどうでしょうか。

平成27年(2015)の初午は、2月11日(水)です。

## 日露戦争

### 松岡静雄と國男



松岡静雄

明治37年(1904)2月8日に日露戦争が開戦しました。

この戦争に、当時27歳の松岡静雄は、海軍の軍人として従事しました。

そして、法制局に勤めていた國男は、捕獲審檢所に出して仕事をしました。捕獲審檢所は、戦時において海上捕獲の効力を確定するために設置された交戦国の特別の裁判所です。

ここで、國男は拿捕された船の積み荷の目録を、外国語の字引を引きながら作成する仕事をしました。



## ☆☆入館案内☆☆

☆開館時間  
9時～16時30分  
(入館は16時まで)  
☆休館日  
月曜日、祝日の翌日  
12月28日～1月4日  
☆入館料  
無料

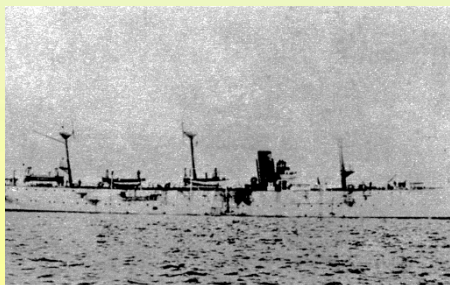
## 名作著書紹介

### 故郷七十年を 読む



國男は、『故郷七十年』で日露戦争のときの静雄について、次のように記しています。

静雄は「日露戦争の時は、新参の大尉で千代田艦の航海長をしており、仁川沖の海戦に加わった。(中略)海戦前夜、いつ死ぬかも知れないからといって、非常に長い手紙を書いてよこしたが、それが戦争が終わってから私のところにとどくというところもあった」とあります。



松岡静雄が乗艦した千代田艦  
(当館蔵)

つまり、静雄は兄である國男にさまざまな思いを手紙で伝えていたことがわかります。

記念館では、日露戦争中に、静雄が國男へ送った手紙を所蔵しています。そこには、戦況の報告や静雄自身の気持ちがつづられており、國男だけでなく鼎、井上通泰、輝夫(映丘)への気遣いも読み取れます。

## 館日記

2月28日(土)に、第2回福岡町柳田國男ふるさと賞の授与式が行われます。次の4人の方がふるさと賞を受賞されます。

【小学生低・中学年の部】  
田原小学校3年  
大塚柚花さん

【小学生高学年の部】  
田原小学校5年  
山本壮悟さん

【中学生の部】  
福岡西中学校2年  
山本柊羽さん

【新町の小字について】  
福岡東中学校2年  
安田千尋さん

【三拾六歌仙扁額】  
受賞者の氏名・学校名と作品名は、左のように記念館内で掲示しています。ご覧ください。

【三拾六歌仙扁額】

受賞者の氏名・学校名と作品名は、左のように記念館内で掲示しています。ご覧ください。



福岡町柳田國男ふるさと賞の掲示板